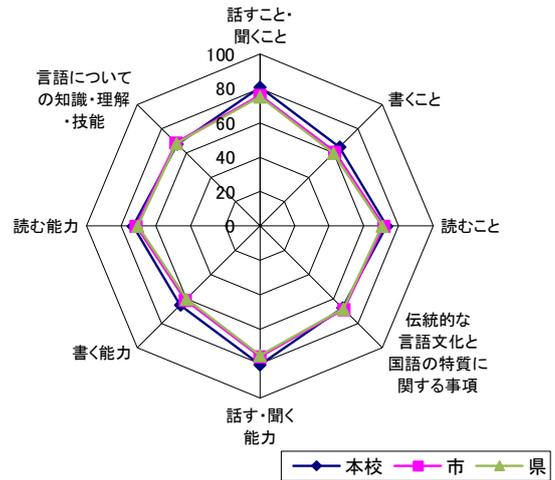


# 宇都宮市立豊郷中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	80.6	76.0	75.2
	書くこと	65.0	60.9	59.9
	読むこと	73.1	71.4	70.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.4	68.5	68.0
観点	話す・聞く能力	80.6	76.0	75.2
	書く能力	65.0	60.9	59.9
	読む能力	73.1	71.4	70.4
	言語についての知識・理解・技能	67.4	68.5	68.0



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○県や市の正答率を4～5ポイント上回る結果であった。昨年と比較すると、15ポイント近く向上している。特に「分かりやすく伝えるために話の構成を考える」では、県や市の正答率を7ポイントほど上回った。</p> <p>●「資料の効果的な活用方法について考える」では、上位層と下位層の差が70%近くあり、大きく差が表れた。</p>	<p>・資料を用いて説明する機会を設ける。</p> <p>・相手の話を踏まえたうえで、自分の考えを形成し、まとめるという指導・活動を授業の中に取り入れる。</p> <p>・グループにおける話し合い活動を必要に応じて授業に取り入れ、話したり聞いたりする機会を増やす。</p>
書くこと	<p>○県や市の正答率を5～6ポイント上回る結果であった。「話し合いの内容を参考に、提案することをまとめて書く」では、県や市の正答率を10ポイント以上上回っていた。</p> <p>●上記と同じ問題に関して、県や市に比べ上回っていたものの、正答率は50%で、上位層と下位層の差が90%近くあり、大きな差が見られた。</p>	<p>・記述式の問題にあきらめずに取り組む姿勢を身につけさせる。</p> <p>・自分の考えや思いを、授業はもちろん日常生活においても文章で書き表すことを指導していく。また、教科の垣根を越え、他教科や道徳、総合の時間でも、自分の考えを文章で表現する学習活動を積極的に取り入れる。</p>
読むこと	<p>○県や市の正答率を1～2ポイントとわずかに上回る結果であった。「文章を読んで筆者の主張を捉える」や「特徴的な表現を踏まえて物語を読む」では、6～7ポイント上回っていた。</p> <p>●「物語の展開や表現について自分の考えをもつ」や「登場人物についての描写を捉えて読む」では、県や市の正答率は上回っていたものの、上位層と下位層の差が60～70%近くあり、大きな差が見られた。</p>	<p>・接続語や表現など、読解における技術的な内容も指導していく。</p> <p>・文章を基に、登場人物の心情や人物像、筆者の考えを読み取ることを不得意としている生徒が多いため、授業等を通して重点的に指導していく。</p> <p>・表現や文章の特徴についても、授業の中で着目させながら、読みの指導を行う。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○漢字の読み問題では、3問中2問が正答率95%を超えていて、歴史的仮名遣いや漢字の成り立ちについては、無答率が0%であった。</p> <p>●4つの領域の中で唯一県や市の正答率を下回っていた。特に漢字の書きでは、無答率が25%を超える問題もあった。</p>	<p>・既習した漢字の読み書きを授業の中で適宜確認する。また、新出漢字も漢字テストを行ったり、書き順・部首を確認したりするなどして、丁寧に指導していく。</p> <p>・古典教材の学習においては、音読を重視し、歴史的仮名遣いをきちんと習得させる指導を行う。</p> <p>・読みが分からなくても、漢字のつくりの音の部分や今までの学習をヒントに、読み方を考えて書く姿勢を育てる。</p>